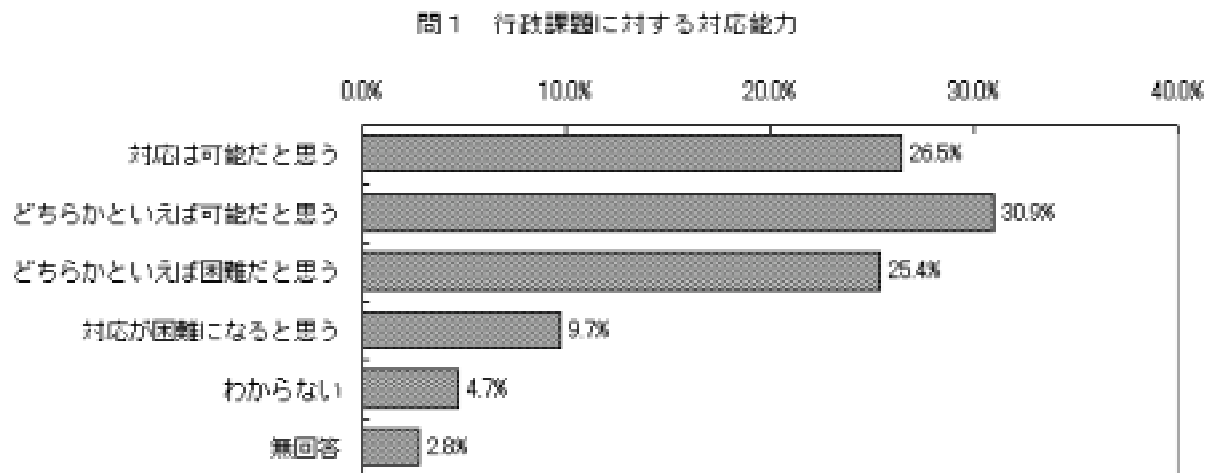


2 調査結果

■今後の行政需要への対応や広域行政について

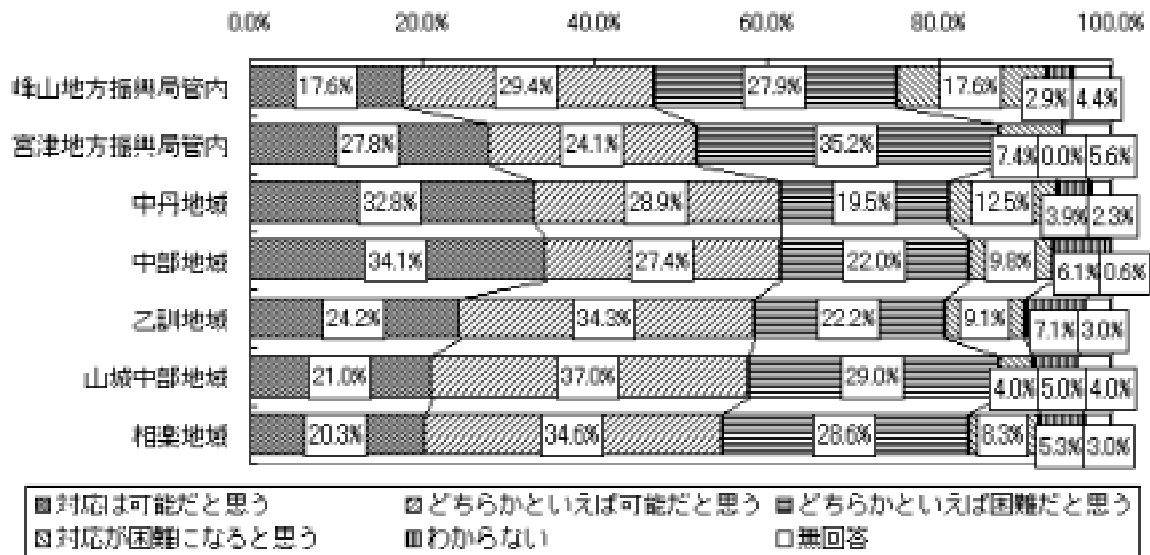
問1 現在、地方自治体は、少子・高齢化の急速な進展、IT革命といわれる情報通信技術の発展、地球規模での環境問題の広がりなど、地域社会を取り巻く社会経済環境の変化に対応しながら、行政改革や財政の再建に取り組んでいくことが求められておりますが、あなたが現在お住まいの市町村は、このような行政課題に対応していけると思いますか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

現在お住まいの市町村が、地域社会を取り巻く行政諸課題に対応していけるかどうかをたずねたところ、「どちらかといえば可能だと思う」(30.9%)と「対応は可能だと思う」(26.5%)をあわせた「可能だと思う」が57.4%を占めており、「どちらかといえば困難だと思う」(25.4%)と「対応が困難になると思う」(9.7%)をあわせた「困難だと思う」(35.1%)を上回っている。



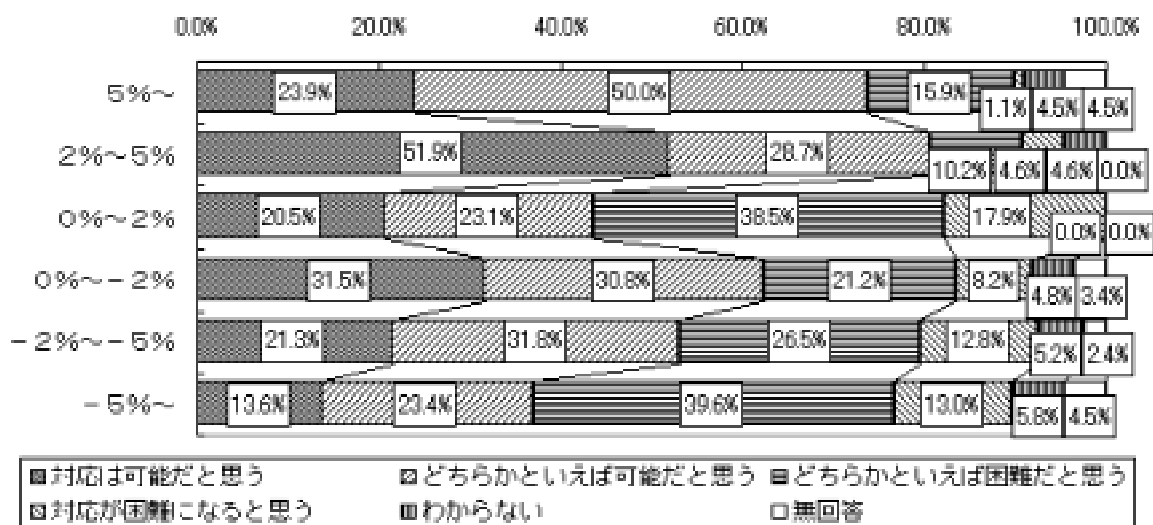
地域別にみると、いずれの地域でも「可能」が「困難」を上回っているが、「峰山・宮津地方振興局管内」では「可能」と「困難」の差が10%未満で、他の地域に比べて「可能」と「困難」が拮抗している。

問1 地域別 行政課題に対する対応能力



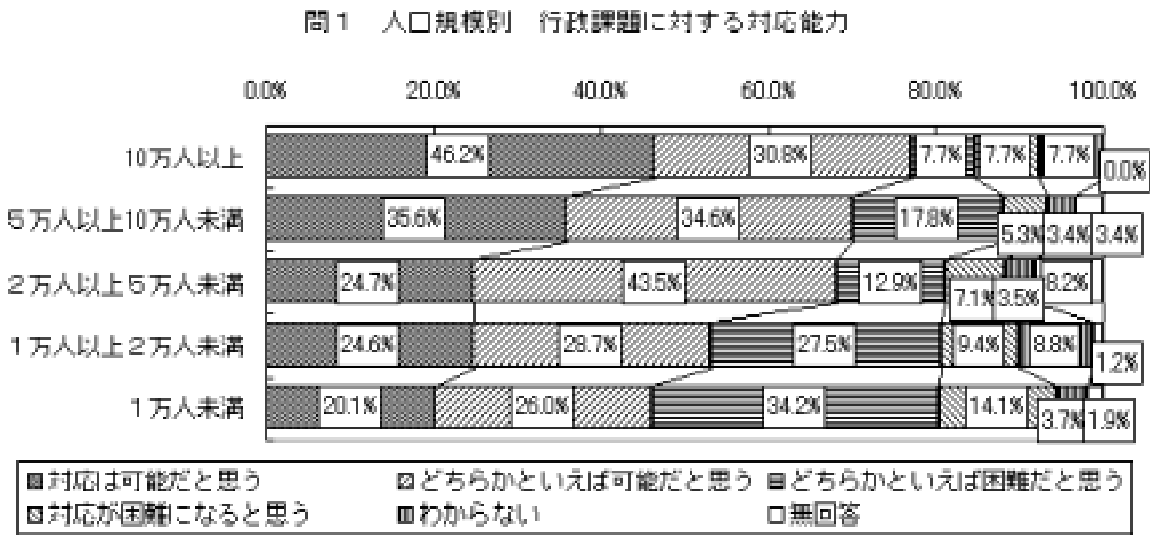
人口増減率別にみると、5%以上減少している市町村と、人口増加率が2%未満の市町村で「困難」が「可能」を上回っている。

問1 人口増減率別 行政課題に対する対応能力



*国勢調査に基づく平成7年から平成12年にかけての市町村毎の増減率

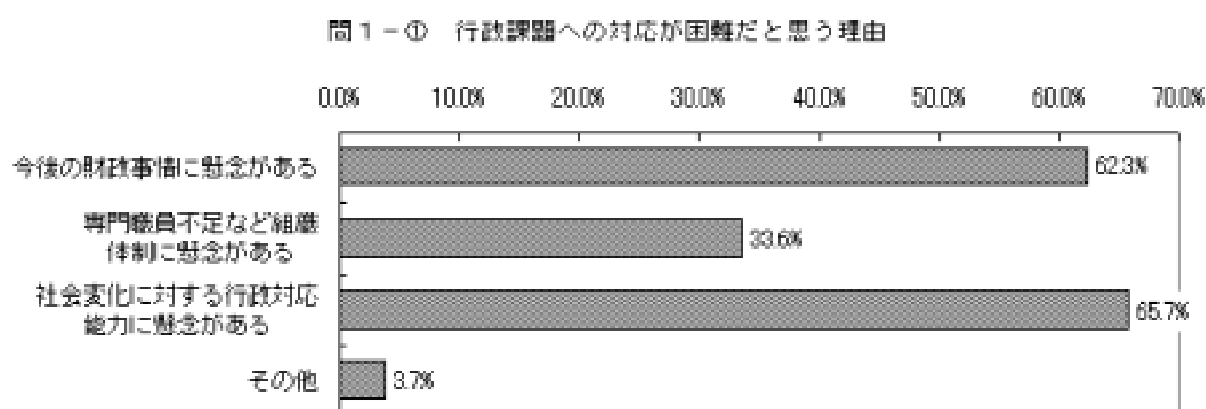
人口規模別では、人口1万人以上の市町村では「可能」が「困難」を大きく上回っており、人口規模が大きくなるにつれて「可能だと思う」の占める割合が大きい。一方、「1万人未満」の市町村では、「困難」がわずかに「可能」を上回っている。



*平成12年国勢調査に基づく人口区分

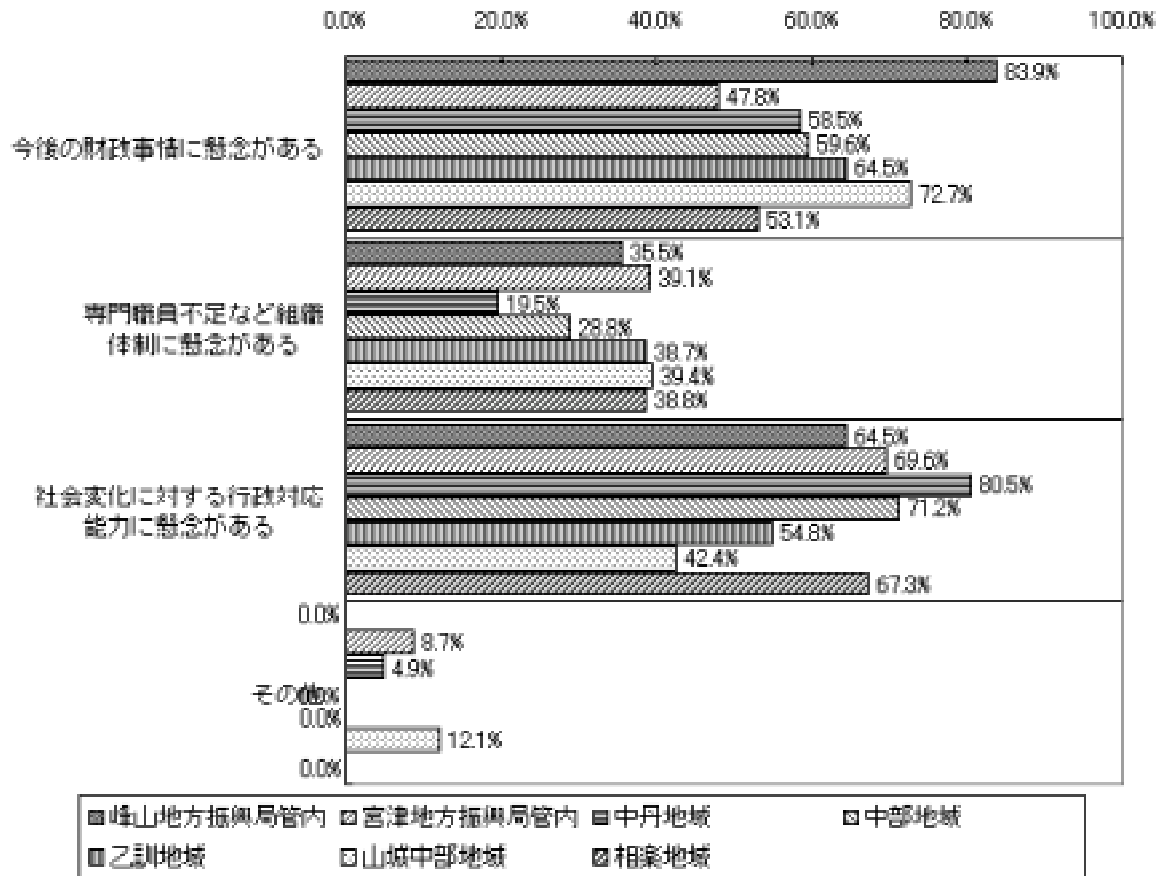
問１－① （「問１」で「３ どちらかといえば困難だと思う」「４ 対応が困難だと思う」を選択した場合）なぜ、「どちらかといえば困難だと思う」「対応が困難だと思う」と思いましたか。あてはまるものすべての番号に○をつけてください。

問１で行政課題への対応が困難だと回答した方に対し、その理由をたずねたところ、「社会変化に対する行政対応能力に懸念がある」（65.7%）、「今後の財政事情に懸念がある」（62.3%）が「専門職員不足など組織体制に懸念がある」（33.6%）を大きく上回っており、行財政運営のあり方や行政としての社会変化への対応能力などを懸念する意見が多い。



地域別にみると、「峰山地方振興局管内」「乙訓地域」「山城中部地域」では「今後の財政事情に懸念がある」が最も多く、「宮津地方振興局管内」「中丹地域」「中部地域」「相楽地域」では「社会変化に対する行政対応能力に懸念がある」が最も多い。

問１－① 地域別 行政課題への対応が困難だと思う理由

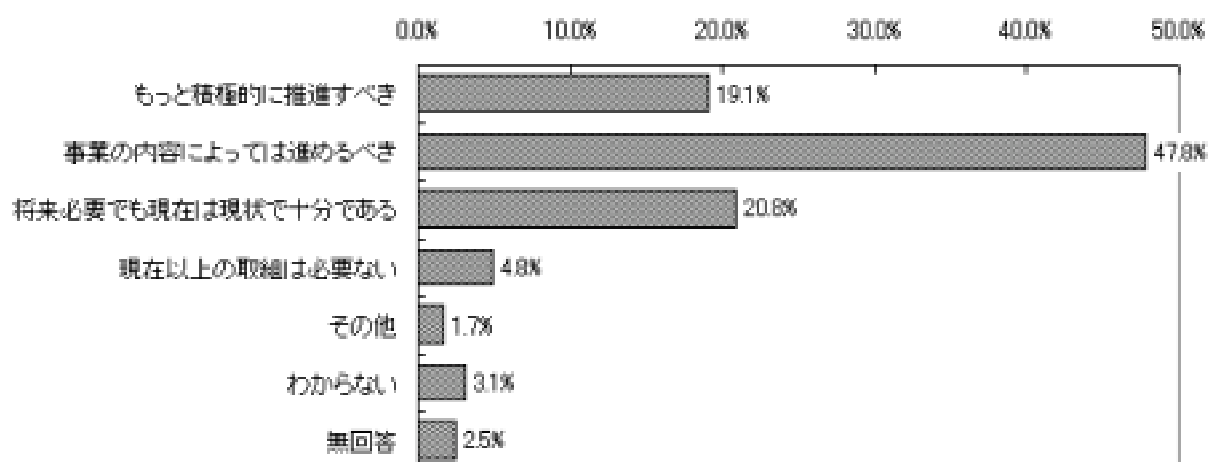


問2 現在、複数の市町村が共同で事務を行う一部事務組合方式等による広域行政が行われています。

(1) あなたは、現在行われている広域行政についてどのようにお考えですか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

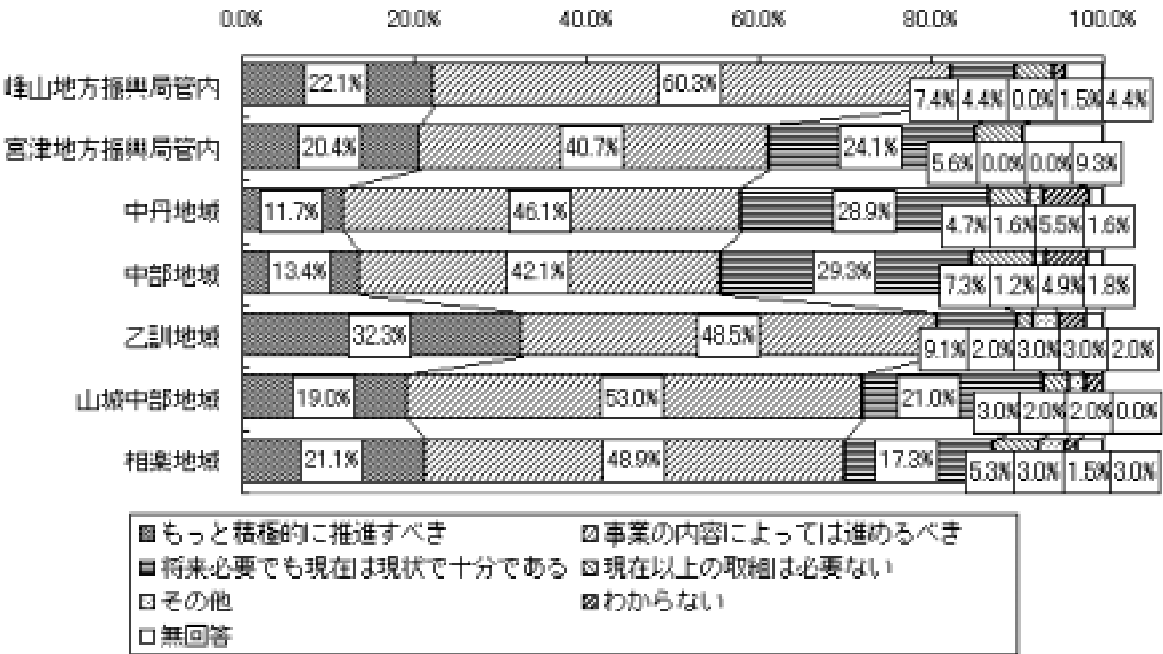
広域行政の実情に対する考えをたずねたところ、「事業の内容によっては進めるべきである」(47.8%)と「もっと積極的に推進すべき」(19.1%)をあわせた66.9%が、何らかのかたちで広域行政を進めるべきとの考えを持っていることがわかる。

問2(1) 現在の広域行政に対する考え方



地域別にみると、「峰山地方振興局管内」と「乙訓地域」において、「もっと積極的に推進すべき」「事業の内容によっては進めるべき」をあわせると80%以上を占めており、他の地域に比べて何らかのかたちで広域行政を進めるべきとする割合が大きい。

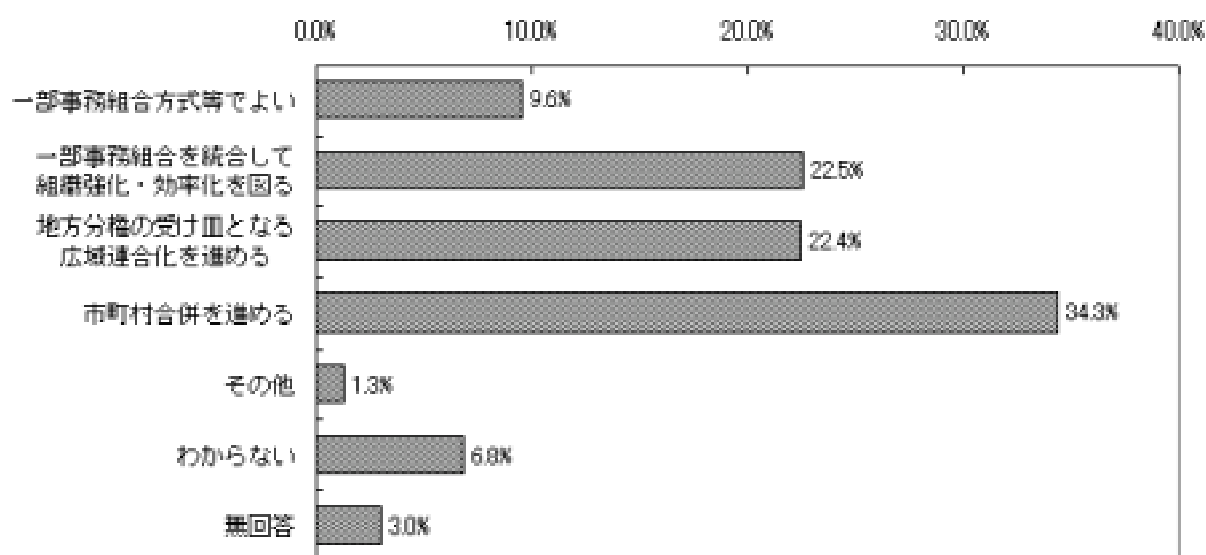
問2(1) 地域別 現在の広域行政に対する考え方



(2) あなたは、今後、広域行政をどのような手法で行うべきだとお考えですか。あてはまるものを1つだけ選び、番号に○をつけてください。

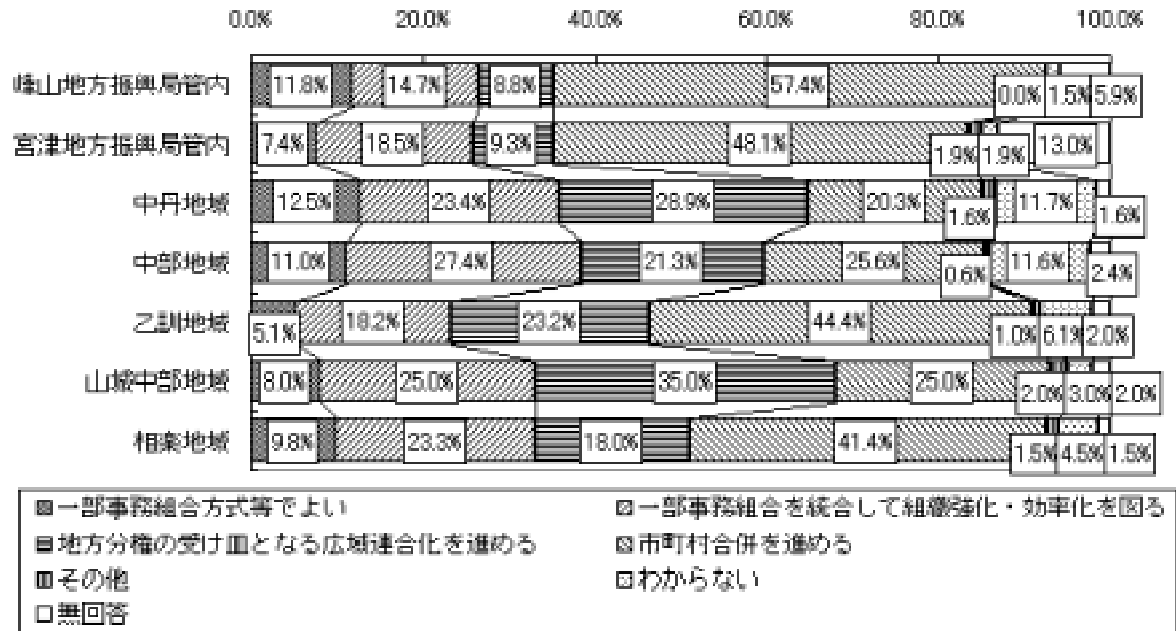
今後、望ましい広域行政の運営手法についてたずねたところ、「市町村合併を進める」(34.3%)が最も多く、次いで「一部事務組合を統合して組織強化・効率化を図る」(22.5%)、「地方分権の受け皿となる広域連合化を図る」(22.4%)となっており、市町村合併による行政運営の効率化と体制の再構築を求めている割合が大きい。

問2(2) 広域行政推進の手法



地域別にみると、「市町村合併を進める」が「峰山地方振興局管内」では他の地域に比べて多く50%を超えており、また、「宮津地方振興局管内」「乙訓地域」「相楽地域」でも40%を超えている。

問2(2) 地域別 広域行政推進の手法



広域行政の必要性和広域行政の推進手法をみると、広域行政を「もっと積極的に推進すべき」では「市町村合併を進める」が64.4%と大きな割合を占めている。一方、「将来は必要でも現在は現状で十分である」「現在以上の取組は必要ない」では、「一部事務組合方式等でよい」や「一部事務組合を統合して組織強化・効率化を図る」の占める割合が大きく、既存の手法の活用やその手法の再構築を求める意見が多い。

問2(2) 広域行政の必要性和推進手法

